

あまり健康ではありません。英世のアフリカ行きは、死に行くようなものでした。

昭和二年（一九二七年）十一月、英世は、アフリカのアクラに着きました。

英世のすさまじい研究は、ここにも変わりません。昼夜ちゆうやの別なく研究を続けました。こうして、約六カ月、研究の見通しもでき、最後の研究をアメリカにもどり、設備せうびのよい研究所ですすめようと準備にかかっていたときです。

英世は、背すじに寒けをおぼえ、体がふるえだしました。やつとのこと、宿舎にたどりつき、すぐにベッドに入りました。英世はぐっすりとねむりましたが、熱はさがりません。次第にすい弱しはじめました。黄熱病おうねつびょうにかかったのです。英世は、先に軽い黄熱病にかかり、なおったので、二度と黄熱病にかからないはずだと考えていました。

発病して数日たったころ、